

授業科目名		対象学科・専攻	年次	期別
特別活動の指導法 Teaching Methods of Extra-Curricular Activities		児童教育学科 初等教育学専攻	2年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員	担当形態
演習	1	必修	川上 認	単独

科目	施行規則に定める科目区分又は事項等
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目	特別活動の指導法

<p>〇コアカリキュラム：特別活動の指導法</p> <p>全体目標：特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。</p> <p>学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>(1) 特別活動の意義、目標及び内容 一般目標：特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 到達目標：1) 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2) 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解している。 3) 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。 4) 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。</p> <p>(2) 特別活動の指導法 一般目標：特別活動の指導の在り方を理解する。 到達目標：1) 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。 2) 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解している。 3) 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4) 特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p>

【全体目標及び概要】	
全体目標： 学校教育全体の中で行われる特別活動の意義や目標を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の3つの視点を持ち、学年の違いによる所属集団や活動の変化や各教科や道徳のとの関連及び他の教職員・家庭や地域との連携等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。	
【一般目標及び到達目標】	目標対応
(1) 特別活動の意義、目標及び内容 一般目標：特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 到達目標：1) 改定の基本方針や改善された内容を改定前と対比できる。	(1)-1)、2)
2) 新学習指導要領による特別活動の目標や内容を説明できる。	(1)-1)、2)
3) 特別活動の特質を列記できる。	(1)-3)
4) 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標や内容を説明できる。	(1)-4)
(2) 特別活動の指導法 一般目標：特別活動の指導の在り方を理解する。 到達目標：1) 児童の発達段階や取り巻く環境に配慮した指導の在り方を説明できる。	(2)-1)
2) 特別活動の全体・年間指導計画、指導案を模擬作成できる。	(2)-1)、2)

3) 話し合い活動や異集団との交流活動が計画・実践できる。			(2)-3)、4)
4) 特別活動における取組の評価・改善活動の方法を説明できる。			(2)-2)
回数	特別活動の指導法 授業内容 【川上 認】	到達目標の番号	コアカリキュラム対応
1	特別活動の改訂の基本方針や改善点を理解する	(1) - 1)	(1)-1)、2)
2	特別活動の目標や内容を理解する	(1) - 2)	(1)-1)、2)
3	特別活動の指導における他教科と異なる特質を調べる	(1) - 3)	(1)-3)
4	学級活動の目標と内容 (1) を理解する	(1) - 4)	(1)-4)
5	学級活動の目標と内容 (2) を理解する	(1) - 4)	(1)-4)
6	児童会活動、クラブ活動目標と内容を理解する	(1) - 4)	(1)-4)
7	学校行事の目標と内容を理解する	(1) - 4)	(1)-4)
8	児童や家庭、学校、地域の実態に即した指導の在り方を理解する	(2) - 1)	(2)-1)
9	特別活動の全体・年間指導計画・指導案の作成の仕方を学ぶ	(2) - 2)	(2)-1)、2)
10	話し合い活動の指導計画を作成する	(2) - 3)	(2)-3)、4)
11	話し合い活動の指導実践する	(2) - 3)	(2)-3)、4)
12	交流活動の実践計画を立てる	(2) - 3)	(2)-3)、4)
13	交流活動を実践する	(2) - 3)	(2)-3)、4)
14	特別活動の評価の在り方を理解する	(2) - 4)	(2)-2)
15	ガイダンスやカウンセリング (教育相談) の必要性を理解する	(2) - 4)	(2)-2)
定期試験	実施する		
成績評価方法	学習態度 (関心・意欲・態度) 50% 定期試験 (知識・理解) 50%		
テキストおよび参考文献	『小学校指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活動編 (平成 29 年 7 月 文部科学省)』東洋館出版社、『特別活動の研究』山口短期大学		
メッセージなど	特別活動の趣旨に鑑み、よりよい仲間づくりと楽しい学級・学校づくりを目指す姿勢で受講してほしい。		

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 改定の基本方針や改善された内容を改定前と対比できる。	ほぼ確実に方針や内容を対比できる。	十分に方針や内容を対比できる。	おおむね方針や内容を対比できる。	まったく方針や内容を対比できない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-2) 新学習指導要領による特別活動の目標や内容を説明できる。	ほぼ確実に目標や内容を説明できる。	十分に目標や内容を説明できる。	おおむね目標や内容を説明できる。	まったく目標や内容を説明できない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-3) 特別活動の特質を列記できる。	ほぼ確実に特質を列記できる。	十分に特質を列記できる。	おおむね列記できる。	まったく列記できない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-4) 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標や内容を説明できる。	ほぼ確実に目標や内容を説明できる。	十分に目標や内容を説明できる。	おおむね目標や内容を説明できる。	まったく目標や内容を説明できない。	定期試験 (知識・理解)	20%
(2)-1) 児童の発達段階や取り巻く環境に配慮した指導の在り方を説明できる。	ほぼ確実に実態に配慮した指導の在り方を説明できる。	十分に実態に配慮した指導の在り方を説明できる。	おおむね実態に配慮した指導の在り方を説明できる。	まったく実態に配慮した指導の在り方を説明できない。	授業態度 (関心・意欲・態度)	10%
(2)-2) 特別活動の全体・年間指導計画、指導案が模擬作成できる。	ほぼ確実に指導計画が作成できる。	十分に指導計画が作成できる。	おおむね指導計画が作成できる。	まったく指導計画が作成できない。	授業態度 (関心・意欲・態度)	20%
(2)-3) 話し合い活動や異集団との交流活動が計画・実践できる。	ほぼ確実に交流活動が計画・実践できる。	十分に交流活動が計画・実践できる。	おおむね交流活動が計画・実践できる。	まったく交流活動が計画・実践できない。	授業態度 (関心・意欲・態度)	10%
(2)-4) 特別活動における取組の評価・改善活動の方法を説明できる。	ほぼ確実に評価・改善活動の方法を説明できる。	十分に評価・改善活動の方法を説明できる。	おおむね評価・改善活動の方法を説明できる。	まったく評価・改善活動の方法を説明できない。	授業態度 (関心・意欲・態度)	10%